第１回　平塚市立太洋中学校
いのちを守る森づくり植樹式

平成２６年３月１７日(月)

共催　●進和学園　いのちの森づくり　友の会　●社会福祉法人　進和学園

３月１７日（月）１４：００に、本校グラウンド南西にある通称『夕陽ヶ丘』で、植樹式を行いました。植樹式の実施により生徒たちに、愛校心や、自然を大切にする気持ちが育まれることを願い、また、「いのちの森づくり」の目的が、「森づくりを通して命の尊さや自然環境の大切さを学び、さらには、人間としての生き方を考える。」であり、本校の教育に十分な効果があると考えたからです。そして、この植樹式が３月１８日(火)付けの神奈川新聞と３月２０日(木)付けのタウンニュースに掲載されました。

平成２６年３月１８日（火）神奈川新聞より

平塚

森づくりで防災を
校庭海側に中学生ら植樹

本物の森をつくるとともに、津波から生徒を守ろうと、平塚市立太洋中学校（高浜台）で17日、「第1回いのちを守る森づくり植樹式」が行われた。社会福祉法人「進和学園」（方田）を利用する知的障害者らの「どんぐりグループ」が育てた苗木500本を、生徒26人と鈴木豊校長らが校庭の海側に一本一本植えていった。

鈴木校長は、潜在自然植生（人間の影響を一切停止したときに生じる植生）に基づく森づくりで知られ、東日本大震災被災地では「瓦礫を活かす森の長城プロジェクト」にも取り組む横浜国大の宮脇昭名誉教授の教え子。どんぐりグループが宮脇教授の指導を受け活動しているのを知り、進和学園と共催で森づくりを企画した。「自然植生を子どもたちが学ぶ機会にしたい。また、自然植生の森は津波にも強いので、子どもたちを守る役割にもなる」と話す。

費用は「進和学園いのちの森づくり友の会」の基金から寄付された。苗木は、どんぐりグループが市内外で拾ったドングリから育てたスダジイ、シラカシ、タブノキなど。潜在自然植生に基づき25種類をそろえた。第2回は千本植樹するなど今後も続ける計画だ。

作業は、サイエンス部などの1、2年生が進和学園のスタッフの指導を受け行った。2年生で同部部長の諏訪部大佑君(14)は「自然の森はいろいろな種類が交ざりあっていて、人間社会も同じというのは、その通りだと思った。立派に育って、生徒を守ってほしい」と、熱心に取り組んでいた。（熊谷　和夫）

校庭の海側に潜在自然植生に基づく苗木を植樹する平塚市立太洋中の生徒たち　＝同市高浜台